

令和7年度

木材利用推進 コンクールの 受賞施設等決定!

このたび木材利用推進コンクール(主催:木材利用推進中央協議会)において、100件を超える応募の中から受賞施設等が決定しました。
10月28日(火)に木材会館(東京都江東区新木場)において、表彰式が盛大に行われました。

優良施設部門



内閣総理大臣賞

NISHIGAWA TERRACE (岡山県)

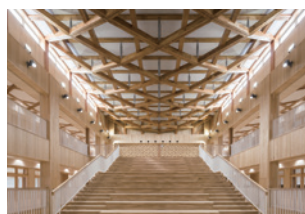
地方都市の市街地に多い低層商業施設にフィットした一方向ラーメン、燃え代設計(準耐火構造)による木材現しの空間を創出。地方の中小製材所で製作可能な構成部材を用い、木材の調達、部材生産、建設までを地域内で担うことができ、地方で展開可能な木造のモデルタイプとなることに期待。



農林水産大臣賞

パッシブタウン 第5街区(富山県)

木造耐火構造の中高層集合住宅。設計開始1年前から富山県の森林組合と連携し、木材調達体制を構築。使用された木材の87%を建設地から85km範囲の森林から調達し、加工。オーストリアの木造建築家と竹中工務店が共同設計し、日本の風土(耐震・耐火・気候)に合った次代の木造化・木質化に取り組んだ優良な事例。



文部科学大臣賞

六戸町立義務教育学校 六戸学園(青森県)

川上から川下の連携による地域材調達体制を構築し、構造躯体に県産材を84%使用。大スパンの張弦梁や木と鉄のハイブリッドトラス工法を採用し、構造の経済性と施工性を両立。ヒバ材を多用した温かい内装などにより木の温もりあふれる快適な学習環境を提供。



国土交通大臣賞

CREVAおおくま(福島県)

東日本大震災と原発事故による被害を受けた福島県大熊町に復興や新産業創出のためのオフィス及び交流のための複合施設として整備。中央に県産材と鉄骨を組み合わせた大空間の共用スペースを設け、暮らす人・働く人・町を訪れる人など利用者の垣根を越えて誰もが自分の居場所と感じられる温かい印象の交流の場を創出。



環境大臣賞

自然循環型CLT & ZEBオフィスビル(兵庫県)

兵庫県産スギ・ヒノキを用いた木造CLTパネル工法のオフィスビル。太陽光や太陽熱など自然エネルギーを活かすとともに、施工から運用まで建物の環境負荷を最大限に低減し、完全ZEBを達成した次世代のモデルとなるCLT建築。

林野庁長官賞

キャプション by Hyatt 兜町 東京(東京都)

地上12階建ての木造ハイブリッド構造による都市型ホテル。環境負荷を抑えながら、快適性・機能性・耐火性を両立し、木構造の魅力を生かした、都心における中高層木造建築の可能性を示す先導的の事例。



高槻城公園芸術文化劇場(南館) (大阪府)

設計の段階から地元の森林組合と対話を行うことで内外装に使用した木材はすべて大阪府産を使用。内外装には周辺の木立に溶け込むように木ルーバーが張り巡らされており、光と緑があふれる開放的な空間が創り出されている。



エバーフィールド木材加工場(熊本県)

小国杉を使い、材長4m以下の小中径製材が互いにもたれかかるとともに支え合う「木造レスプロカル構造」により、斬新な木造無柱空間を実現。自然災害からの再建の原動力となる木造建築産業のさらなる活性化及び地域における大工の育成や技術力の向上を図るためのスペースとしても構想。

令和7年度 木材利用推進コンクール
受賞施設等の概要はこちらをご覧ください。
(https://www.jcatu.jp/commendation/17_list_detail.html)

